

# 日仏修交150周年関連 —アンケート結果とパリクラブの活動

2008. 4  
パリクラブ会長代行 久米

# はじめに

- 「フランス関連ビジネスの変化とフランス語の使用」に係る調査プロジェクトでは、日本の企業関係者・有識者約80名を対象にアンケートを実施したが、日仏修交150周年にあたって、「問1・記録に残すべきこと」「問2・フランスと係わってきて楽しかったこと・醍醐味にあったこと」「問3・この機会にやるべきこと」についても自由記入式で聞いた。
- その結果を以下にまとめた。回答内容については、問1は2・21の報告会で、問2と問3は4・23のランデヴー・フランコジャポネで簡単に紹介した。
- いずれの問も自由記入式であったにもかかわらず、1と3については回答者が40名をこえ、2も30名弱の回答があり、またパリクラブ会員の他に非会員からも多くの回答があった。問2では非会員分の回答はライトブルーで示した。
- 「問1・記録に残すべきこと」と「問3・この機会にやるべきこと」については、グループにわけ整理した。寄せられた回答や期待は大きく、パリクラブで対応できることは限られているが、パリクラブとして目下企画している150周年関連の行事予定も記入した。
- 「フランス関連ビジネスとフランス語」の報告書でまとめとして、日仏経済関係発展のための10の提案もおこなった。150周年だけに行事を集中させる必要はないが、「問2のフランスとのビジネス・業務の楽しみ・醍醐味」なども積極的に広報し、ccifj(在日フランス商工会議所)など他の団体などにも働きかけ、今後の事業の企画・検討に活かしていく必要がある。

## 1-1.記録に残すべきこと一日仏経済関係史・最近の日仏関係

- 渋沢翁以来のフランスとの全般的な交流史、特に経済・技術導入の歴史、政治的関係の見直し
- 日仏の通史—歴史的な関係を学ぶべき
- 日仏外交の主要文書写し整理
- フランスの現行の法典、法律の解説書整備
- 経済・社会・科学・工業の分野でフランスが日本の近代化に果たした貢献
- 第2次大戦前後の日仏軍事関係と戦勝国の一員だったフランスの網羅的対日ポジション
- 1960年代に日本産業の急速な成長に貢献したフランスからの協力
- 貿易摩擦から最近までの日仏のビジネスの歴史（出版物に）
- 国際金融面での日仏協力（ベトナム復興・アフリカ支援など）
- 原子力発電における日仏協力
- 第三国でのプロジェクト開発協力
- 日米関係と比較した日仏関係—より古いが、日系人社会は小さい。
- 日本のG7参加
- ミッテランの初の公式来日・知日派大統領であったシラク政権
- 07・6のサルコジ・安倍会談—新しい関係を気づくという両国の意思
- グローバル競争への対処策についての日仏経済界の認識の変化

# 1－2. 記録に残すべきことー 幕末明治期の日仏関係

- ・ 日仏間の外交・経済交流の実績
- ・ 仏産業技術の日本産業勃興への貢献
- ・ 渋沢栄一の貢献・三井物産のパリ進出・帝国酸素アセチレンの設立
- ・ 来日フランス陸軍士官たちの歴史
- ・ 不平等条約とその改正の過程
- ・ 生糸輸出を巡る仏英の動き
- ・ 横須賀造船所・富岡製糸工場でのフランス技師の貢献
- ・ アルベール・カーンと日本
- ・ 西欧に派遣された留学生の学び、考えたことの記録
- ・ 両国関係発展に貢献した日仏両国の人物の事跡
- ・ 交流と対立、日本の骨格作りへのフランスの影響、その際の日仏の重要人物など
- ・ 構造的にもものを把握する能力を共有した時代、19世紀から20世紀初頭の日仏の関係。哲学的思考など。
- ・ 浮世絵と印象派の交流。
- ・ クローデルと日本との関係、フランスの日本で果たした役割、日本の主力輸出産業であったシルクの話

# 1-3. 記録に残すべきことー貿易摩擦・投資交流 ・企業活動

- ・ 70・80年代の日仏貿易摩擦
- ・ Japon, c'est possibleキャンペーン
- ・ ルノー・日産の戦略的提携・トヨタのフランス進出
- ・ 70・80年代の通商摩擦・投資交流の活発化（ルノー・トヨタ）
- ・ 日産ルノーのアライアンス
- ・ ルノー日産のアライアンス
- ・ ルノー・日産の資本提携
- ・ 日仏ワイン交流史・日本企業によるシャトー買収。
- ・ 仏シャトー取得（83・12）メドック・グランクリュウーのオーナーに。
- ・ 自社の欧州統括会社の設立（於いてパリ）。仏VALEO社へのブレーキ摩擦材生産技術の供与。
- ・ 技術を生んだフランスの企業（油圧シャベルのポクレン社）が世界競争のなかで生き延びられなかったこと。

# 1－4．記録に残すべきことー文化・人物交流など

- パリ日本文化会館の開設
- クローデルやシラクのような親日家、ゴーン・トルシエなどのフランス人の活動・日本観
- 日仏クラブでの企業トップ間の意見交換による相互理解の促進
- 森英恵・ケンゾーの仏での評価
- フランス女性の社会進出
- 赤坂迎賓館別館で、鈴木首相がバール首相を招いた食事の席、バール首相が白身の魚が大変美味であるとして名前をきくと鈴木首相は「すずき」と答え、フランス語をきくと「バール」と答えた。ー「バール」「スズキ」両首相の共食い。
- 禁煙全盛時代ですが、ニコチンとはフランス人の j e a n N I C O に由来するものと知ったが、そのようなエピソードは日仏の関心をおおるであろう。

## 2. 日仏間のビジネス・業務での楽しみ・醍醐味—1/4

- 企業関係者・政府機関関係者
- パリ金融市場の存在感を高めたこと。円のパリ市場での上場。（金融）
- LBOや買収ファイナンスで主導的な役割を果たしたこと。ユーロ導入への立会い。仏銀との取引で邦銀no. 1になったこと。様々な機会に日本経済について講演したこと。（金融）
- 社会党政権下での現地労務管理。（商社）
- フランスの航空・宇宙関連技術の対日技術移転。（商社）
- 米国製戦闘機へのフランス製電子機器の売り込み。（商社）
- フランスの技術ライセンスの販売の際に遭遇したフランス側のタフな交渉と対価への執着。移転価格税を巡りフランスの国税当局と戦ったこと。ワールドカップフランス大会で日本から多くの客を迎え、フランス人とフランスの優勝を喜びあえたこと。（商社）
- 航空宇宙分野でのフランス製品の今後の展開。（商社）
- 第三国でのビジネス経験が多かったが、フランス人のオープン・マインドに助けられたこと。（商社）
- フランス側は投資期待があり日本企業には好意的（92年から05年）。（自動車）
- 東洋人と西洋人の違い。会話や人情の妙の理解。（自動車）
- 欧州の使用環境に適合するブレーキ摩擦材技術のを日仏協力による開発と欧州カーメーカーの採用。（自動車）
- 日本語を話すフランス人の多さ。（自動車）
- 民営化に携わり、仏政財界の有能な人材とめぐり合ったこと。（電機）
- 欧米は一括にできないこと。グローバル化とは多様な価値観・文化を理解しあうことを肌で感じた。（電機）
- 最後はまとめてくれる仏企業の集中力。フランスからの技術系留学生の受け入れ（累計100人に）。（重機）

## 2日仏間のビジネス・業務での楽しみ・醍醐味ー2/4

- 販売会社の経営管理を通じて知ったフランスの奥深さ・フランス人の人間味〈機械〉
- フランス・フランス国民の多様性。EU拡大におけるフランスの役割・リーダーシップ。  
（食品）
- シャトー買収に関する仏農水省との交渉。〈食品〉
- 具体的なビジネスの場で日仏経済協力の実現に向け取り組んだこと。〈食品〉
- フランス人が味覚の面で非常に高レベルで冒険的なこと。ブランド・オリエンテッドなこと。〈食品〉
- フランスからの技術導入により地下岩盤備蓄設備の建設。フランス人の発明になるシールド工法に関してフランスへのアドバイス。英仏トンネルで日本製のシールド・マシンの採用。〈建設〉
- 文化が高く生活が豊かなパリに本拠を置き、欧州アフリカなど、広く世界を見、仕事をしたこと。プロジェクトに取り組むフランスの企業・金融機関との付き合い。フランス各地への訪問（日本企業による直接投資支援・ジャポン・セポシブル支援活動）〈政府機関〉
- 公共セクターが重要なシェアを占めてきた両国で、経済運営の考え方が共通することが多かった。〈政府機関〉
- フランスの制度、文化などを広く深く理解することができるになるにしたがって、業務そのものの意義も深く実感できるようになったこと。〈政府機関〉
- 対仏投資ミッションへの参画などにより、ビジネスパートナーとしての日仏企業の活動に貢献。〈政府機関〉
- 対日キャンペーンの推進。荷風リヨン100周年記念「シンポ（07.11）」の盛況。  
（政府機関）
- ミッテランへのインタビュー。マーストリヒト条約批准国民投票・核燃料運搬船の取材など。〈報道〉

## 2. 日仏間のビジネス・業務での楽しみ・醍醐味—3/4

### 有識者（教育・報道・経済）

- フランス語教員連合（FIPF）の世界大会を東京で開催（1996年）したこと。
- 数多くはなかったが、報道により日本でのフランス理解が高まったと実感できたとき。
- グランゼコールの教育の伝統にふれたこと。日本よりも分離融合、個人の価値観を大切にす。ポピュリズムではないところ。
- 教育交流
- 米国人とは大きく異なるフランス人の考え方がよく理解できたこと。まさに世界は多元的ということを知ったこと。
- 友あり遠方より来るで、時々友人が訪ねてくること、たまにフランスに行つて旧交を暖めてくること。
- 日仏双方の地を実際に訪ねて、じかに人々とコミュニケーションをとってもらふことで、それぞれを重層的に理解してもらえたこと。それをきっかけに、いろいろな分野での日仏の人物の交流が継続、発展していったことを目の当たりにすると、大変に嬉しい。
- ビジネスとプライベートライフのバランス
- 親しいフランスの友人と底抜けに飲んで、楽しみあったこと
- ガストロノミーについて関心を持てたこと。
- 楽しかったことは一杯ある。逆に、フランス人に日本の冠婚葬祭・付き合いの大切さを分かってもらうのはたいへん。特にビジネス社会で、重要な関係のある相手方の社葬に当方の最高責任者が列席することの必要性の説得は不可能でした。
- ①仕事を離れてフランスのことを日本の企業人に紹介できたこと、②1960年代の日本の外貨不足時代に仏銀行と組みわが国への大量フランス工作機械の融資付き輸出商談に成功したこと、③1970年代に商社の機能をENAで講義し、その結果ENAの学生を長年自社で定期的に研修生として受け入れたこと④フランス企業と組み南ア炭の対日大量輸出を長年実現できたこと、⑤フランス企業と共同開発したカタールでのLNGプロジェクトが完成したこと、⑥パリクラブの創設、⑦NPOパスツール協会の設立に到ったこと等。

## 2. 日仏間のビジネス・業務での楽しみ・醍醐味ー 4 / 4

- フランス文化に触れられたこと。仏人ととことん理詰めの議論をすること。
- きりが無い。パリクラブ10年誌への投稿をご覧願いたい。
- 時代の変化に伴って、フランスの優れた製品・技術を日本に導入。日本の潤いと産業の進歩に多少なりと貢献。一方、力をつけた日本が逆にフランス経済の進展に貢献する局面での仕事など、互惠推進の真只中に身をおいてフランス経済・文化の理解を深め得たこと。
- ①担当していた製品を始めて輸入したところ、それが大きなビジネスに成長し、結果的に2度のパリ駐在につながり、現地では多くのフランス人の友人・知己を得、そのうち何人かは今もなお「生涯の親友」としてつきあっていること。②フランス人の生き様、特にバカンスや早期退職に代表される人生の過ごし方に大いなる影響を受け、仕事人間の人生観は変わり、有意義な第二の人生を目指して早期退職したこと。
- フランス人の考え方が若干理解できたこと。
- われわれには持ち合わせていないフランス文化の一端に接することができ、物事に対する考え方の幅が増すなど、種々大いに参考になったこと
- ①フランス大使館勤務時代は、ビデオ・テープ・レコーダーの通関差止め事件で苦労したが、それにより反って日仏間の理解が進んだ②キャノンの複写機の投資により、フランスのダゲレオが起こした写真技術が、いわば、お里帰りするといつてフランス政府は極めて積極的に対応してくれた。③住友ゴムのダンロップのフランス工場買収も、ミシュランの妨害工作にも拘らず、フランス政府が受け容れてくれた。④日本企業のフランス投資を巡っていわば喧嘩相手と思っていたフランス工業省の局長がその後フランスガス社長として、世界エネルギー会議東京大会の際にフランス国内委員会会長として全面的な支持をののもと、最大の海外からの代表団を連れてきてくれたことに感激した。昨日の敵は今日の友であった。

# 3. 経済人として、この機会に是非やるべきこと

## 3-1. 全般・経済交流・企業交流

- ・ 「日仏関係を考える会」の音頭とり。
- ・ 日仏関係の是非の評価と対応。
- ・ 総合的なフランス週間（学術・芸術・文化・技術・産業など）の企画。
- ・ 経済版「日本におけるフランス年、フランスにおける日本年の開催」。
- ・ 米英に比べて少ない交流の拡大。
- ・ 行事を盛り上げ、日本人の対仏意識を高めること。
- ・ 良好な関係（文化・建築・食品・装飾）を更に深める。
- ・ 対等で多様な関係を持つ国同士のシンボリックな企画
- ・ 日本がもっとヨーロッパに目を向けるよう、その重要性を報道を通じてより一層訴えていく
- ・ 日仏の経済の歴史・現在の関係をもっとアピールする。
- ・ お互いの国を好きになれるよいに交流を増やすこと。
- ・ ビジネス交流を通じて自国の文化を更に深く理解すること。
- ・ 両国政府関係者が、人脈などを再整理しながら、両国関係の強化に向けて意図的に積極的に働きかけること。
- ・ 日仏の政財界人間の太いパイプの確立。日仏経済人会合の開催。地方同士の連携強化。
- ・ 両国経済界のよりレギュラーなパーソナルベースでの交流。
- ・ YOUNG EXECUTIVE/GMクラスの分野を超えた交流。
- ・ 国益論的な経済マターでのフランスの官民一体の取り組みを見習うべし
- ・ 日仏相互間の投資交流の一層の推進・強化。
- ・ 競争・補完性、ビジネスチャンスが十二分に追求されていないことのアピール。

- ・ フランスの伝統・文化を背景にした商品のPR
- ・ フランスの優秀分野のPR
- ・ フランス大企業にはアロガンス・アンフェア・誠実性に欠けるという悪印象があるので、その是正
- ・ 雇用条件改善による企業競争力の強化

## 3-2 特定経済テーマ

- ・ 第三国での技術補完・リスク分散による日仏企業協力
- ・ M&Aショップ・セミナー、第三国での両国企業協力セミナー
- ・ 技術面での日仏の協力（仏一独創性、日一改良改善応用）
- ・ 財政金融などの分野での、協力・競争の歴史の整理
- ・ 1908年の渋沢栄一の訪仏・当時の日仏経済交流
- ・ フランス企業に対する防衛航空分野での可能性の啓蒙
- ・ IT関連のフランス言語の収集と邦訳
- ・ 航空宇宙分野におけるフランス欧州の技術力の日本での理解促進。
- ・ 環境ビジネス分野での企画
- ・ エネルギー利用(原子力や省エネ)、環境問題(気候変動など)への対応
- ・ グローバルな課題（温暖化対策・南北問題・人口問題など）に対する日仏企業の共同での取り組み—具体的にはフランスの原子力・日本の環境対策技術、中小企業活性化対策、バイオテクノロジーの共同開発
- ・ 日仏中小企業の国際化に向けての日仏地方自治体レベルでの交流
- ・ 環境政策（大規模投資を伴う再生可能エネルギー開発、新幹線輸送のモーダルシフトなど）の日仏連携
- ・ 環境、エネルギー分野のサステナビリティの共同研究 とリーダーシップの発揮
- ・ フランス・欧州の都市経営の考え方

### 3-3 より広い人物交流・文化教育交流・その他

- 日本国内でのフランス人や仏好き日本人同士の交歓に加えて、仏国内での日本を知るフランス人との海を越えた交歓の機会をつくる。
- 100名単位の訪仏団と訪日団（日仏関係に貢献した人の子孫・リーダー層）の派遣。
- 日米学生会議と日仏会館主催の日仏学生フォーラム。
- 日仏の将来を担う世代の交流。一先人の貴重な業績、体験等を、将来の日仏関係を担う両国の若い人達へ伝承し、現在の日仏関係につき理解を深めてもらうような企画。
- 若い人たちにアピールするような行事。一フランスでの「manga」ブームの実情を日本の若者に「見せる」といった企画。
- 産業、社会、あるいはサルコジ政治など現在のフランスについて、若者に関心を持ってもらうための企画。
- 高等教育の在り方、技術教育の基本などの分野。
- 日本文化のフランスへの紹介。
- 日仏両国間における人材交流。
- 200年祭・250年祭を念頭において、人的交流を積み重ねていく。食の世界を中心にすべき。
- 人物交流 一大相撲・歌舞伎・フランスの演劇・オペラ。
- 仏日両国語を学べる機関（学校）の充実。
- フランス人向けの日本語の教科書作成—ASSIMIL 日本語版のようなもの。
- 駐在員 visa 取得の簡素化と日仏双方における駐在員子女向けの教育インフラの改善
- 帰国子女の受け入れ制度（特にフランス語）の充実
- 交換留学・企業間研修の充実による理解深化。
- フランスでのワインの生産・消費低下が心配。

# パリクラブの活動

- パリクラブ会員だけでなく会員以外からも修交150年の機会に、記録に残すべきこと、企画すべきことについて、多数の回答を得た。
- その内容は経済人を中心とするパリクラブとして充分に対応可能なものがあり、関係者に働きかけ、共同で進めるべきと思われるものもみられる。
- 2007年度は本調査「フランス関連ビジネスの変化とフランス語の使用」の他、「日仏関係黎明期－絹と光」、「旧富岡製糸場見学」、「サルコジ政権の経済政策」などが、修交150周年を意識した活動であった。
- 2008年度は「日仏経済関係150年－回顧と展望」のシリーズで、少し長いホライゾンでテーマを採りあげる予定。
- 具体的には4月より2つのプロジェクトを実施する。
  - ①「日仏財政金融協力」－日本は幕末・明治にフランスの技術を導入し造船所や製糸工場を建設し、フランスの影響を受けた株式会社制度・中央銀行制度なども導入し、国際的な資金調達の間でもフランスとの関係を有した。第2次大戦中にはベトナムで関係を持ち、近年ではIMF・パリクラブ・プロジェクト融資・開発援助など国際金融分野、中央銀行業務さらには民間の銀行・証券業務の分野で密接な関係を有している。現状を紹介し、グローバル時代において国際金融・援助、銀行証券業務、第三国でどのように日仏協力の発展させるかという視点でまとめる。
  - ②「ワインを通じる日仏交流」－フランスでのシャトーの買収と生産・フランスからのワイン輸入・フランスでの技術習得・日本でのワイン生産から海外への輸出、グローバル化の中でのワイン・ビジネスの変化など、ワインに関連した幅広い分野での日仏交流をとりまとめる。その際に、文化・生活様式と結びついた経済分野であるワインの世界を意識したまとめとし、将来のあり方についても考える。
  - ③ その他、「日仏での投資交流：製造業事業中心」「グローバル時代の日仏経済・ビジネス協力」[日仏経済人が見たフランス・日本の強さ・弱さ] からさらに2件選ぶことを検討している。

# より広範な交流プロジェクト実施を

・本年3月に報告書をまとめた「フランス関連ビジネスの変化とフランス語の使用」では、日仏経済関係の発展策として、以下の10の提案が行われている。

1. フランスにおける事業環境（雇用政策・新規事業設立など）の改善
2. アジアなどの第三国における、あるいはグローバルな視点での日仏企業・政府間の協力促進
3. 日本における規制緩和の促進とフランス企業との協力の具体化
4. 「フランス(日本)の経済・技術の強さ（弱さ）・国際的な地位・魅力」についての日仏共同での調査・広報・出版
5. 経営幹部・若手を対象とする日仏経済人会議の開催
6. 日本の社会人を対象としたフランスの国際関係・経済・法律・ビジネスのコース創設
7. 経済・技術・文化・芸術など広範囲の分野での行事を集中的に行う日仏月間の開催
8. 海外実務留学制度の充実—企業の社員対象の制度とフランス政府による社会人対象の制度
9. 企業の外国人実務研修生制度の充実、特にフランス人学生受け入れ促進
10. 大学のフランス語教育内容の多様化（国際関係・経済・政治・法律分野の題材採用）とフランス語検定試験と学校教育・就職との連携強化

・パリクラブでは、多くの行事を共催している在日フランス商工会議所（CCIFJ）、協力を得る機会が多いフランス大使館経済部など、関係の団体との連携を深め、前述の150周年関連調査プロジェクトや上述の提案の具体化に努めることができれば幸いである。